



素材研究 (海外)

ヒンデローペン



かつての港町の栄華を偲ばせる水辺の風景



ハンザ同盟の都市だった歴史も感じさせます



今も継承されている伝統工芸「ヒンデローペン塗り」



16世紀に建てられ、地盤沈下で傾いているオルデホーフエ斜塔(レーワルデン)



ヒンデローペンの南約130キロにある「ゴッホの森」のクレアミューラ美術館に所蔵されている名画「夜のカフェテラス」



素朴で心を和ませてくれる穏やかな村の景観

素朴さと伝統工芸の絵付けなどが魅力 かつてはオランダの商船隊も行き交った港町

オランダの首都アムステルダムの中核から電車ですら約3時間。独自の文化を持つ北部エリアに位置する伝統工芸の村ヒンデローペンは、JATAによる「ヨーロッパの美しい村30選」に入ったことで注目を集めています。小粒ながら古い歴史を持つ村を訪れる観光客はまだ少なく、その素朴な雰囲気は訪れる人を魅了してやみません。

港町の面影と古い歴史を辿る散策

かつては北海へと続く入り海だったアイセル湖に面するヒンデローペンは、オランダ北部のフリースランド州にあります。

ヨーロッパ最大の穀倉地帯であるバルト海、地方の食料輸送などを担ったバルト海貿易や東インド会社を軸とするアジア貿易で、オランダの大規模な商船隊が世界の海を行き交い、海運業が著しく発展した16世紀から18世紀にかけて、ヒンデローペンには多くの船舶が入り込んでいました。

その後、干拓事業によって入り海が閉じられて湖となり、隆盛が続いたヒンデローペンの港としての歴史も暮を下ろしましたが、約700人がひっそりと暮らす村には、港町時代に建てられた石造りの建物がそのまま残され、運河に架けられた木造の橋とともに、往時の繁栄を偲ばせます。

13世紀に市として登録され、中世にはハンザ同盟都市としても栄えたことから、ヒンデローペンでの散策は、水辺の景色にかつての港町の面影を感じながら、古い歴史を辿ることが出来ます。

期待される北部エリアの商品開発

港町として栄えていた当時から、ヒンデローペンでは木製の家具や小物に色鮮やかな模様を絵付けする「ヒンデローペン塗り」の伝統工芸が続いています。村にある数軒の工房で、現在もこの技術が受け継がれており、草花などの自然をモチーフにした絵柄は、村の雰囲気と同様に素朴で心を和ませてくれるものです。

工房見学やワークショップ体験などできるほか、ヒンデローペン塗りの家具に囲まれた部屋のあるホテルにも宿泊できます。

フリースランド州の州都レーワルデンは、2018年の欧州文化首都に選ばれており、年間を通じて様々な文化イベントも開催されることから、同州への関心も高まっています。

オランダ政府観光局の塚越友美広報担当は、「『美しい村』や『欧州文化首都』を契機に、これまで脚光を浴びる機会が少なかった北部エリアにも、奥深い魅力を秘めた多くのスポットがあることを知っていただきたい」と語り、北部エリアへのツアー開発や商品造成など日本市場での新たな展開に期待を示しています。